暴風雪及び大雪に伴う農林業用施設及び農作物等の管理対策

平成26年12月16日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が12月16日６時26分に発表した「暴風雪と高波及び大雪に関する新潟県気象情報　第２号」によると、日本海にある前線を伴った低気圧が16日から急速に発達しながら北東に進む見込みで、16日夜から17日にかけ非常に強い風が吹き、場所によっては最大風速が28メートルになる予報です。

また、17日からは寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まることから、次第に降雪が強まり、18日には山沿いを中心に大雪となる見込みです。

ついては、暴風対策や除雪作業等の事故防止を徹底し、適切な管理により農林業用施設や農作物等の被害防止に努めてください。

なお、冬季においては、冬型の気圧配置が急速に強まった場合、低温や暴風雪及び大雪の被害が拡大しやすいことから、気象情報に留意するとともに下記対策を徹底してください。

１　除雪作業時の事故防止

（１）作業は必ず複数の人員で行い、場所・時間等も周囲に連絡しておく。また、作業中は、屋根からの転落防止のため命綱を使用し、落雪等が懸念される危険な場所には安易に近づかない。

（２）作業の前後には、除雪機の点検・整備を行う。また、除雪作業時にロータリーが停止した場合は、必ずエンジンを止めてから点検・修理する。

２　農林業用施設

（１）農林業用施設については、屋根やその周囲の点検や補強を行い、暴風雪に備えるとともに、積雪による倒壊等が生じないよう除雪及び消雪に努める。

（２）被害が発生した場合は、十分安全を確認した上で、速やかに修繕する。

（３）雪による施設被害(なだれ等)の恐れがある場合や、被害が発生した場合は、速やかに市町村または県機関に連絡する。

３　園芸全般

【事前対策】

（１）暴風対策

ア　ハウスの被覆資材を保護するため、マイカー線、防風網、支柱・支線、誘引結束の点検・補強を行う。

イ　ハウスの換気扇や天窓、暖房機の排気管（煙突）等が強風で飛ばされないよう補強する。

ウ　ほ場のマルチやトンネル等を点検・補強する。

（２）雪害対策）

ア　加温設備のある施設では、可能な範囲で設定温度を高め、内部カーテンを開放するなどにより、屋根部分の融雪及び雪の滑落を促進する。また、施設内部への燃焼ガス漏れが無いよう排気管（煙突）等の保守に努める。

イ　加温設備がない場合は、石油ストーブを焚いて融雪を促進する。

ウ　水分量の多い雪質ほど着雪による物理的な被害は大きくなり、強風により特定の箇所に雪がたまるので過度な荷重がかからないよう除雪する。

エ　滑落した雪による施設への側圧を軽減するため、散水ホース等を使用し消雪を促進する。

オ　必要により、パイプハウス内に支柱を設け補強を行う。

（３）停電に備え、可能な場合は自家発電機の準備・点検を行う。

【事後対策】

（１）施設、支柱・支線、誘引結束等を再点検し、破損箇所は速やかに補修する。特に、作物を栽培中の施設で、被覆資材が被害を受けたところは、補修までの間の低温障害を防止するため、トンネル等で作物を被覆し、保温に努める。

（２）降雪量が多い場合は、雪による施設への側圧及び沈降圧を軽減するため、可能な限りハウス周囲の除雪に努める。

（３）加温が必要なハウスで停電した場合は、ハウス内の早急な温度低下を防ぐため、石油ストーブ等で保温するとともに、施設内環境を改善するため、可能な限り採光する。
停電回復後は、各種設備が確実に作動しているか確認する。

（４）施設の破損等により、葉ズレ、枝ズレ、蕾のスレ等の障害が発生した場合は、収穫物の選果・選別に注意する。また、倒伏した作物で回復が見込まれるものは、速やかに立て起こす。

４　野　菜

【事前対策】

（１）葉物野菜で異常低温が予想される場合は、凍害等を防止するため、不織布等のべたがけを行う。

（２）育苗中のトマトは、ハウス内温度の低下で花芽形成が不良になりやすく、下段花房が奇形花となる恐れがあるので、可能な限り保温する。

（３）積雪とともにハウス内の作物に野そ被害が増加するので、侵入口や造巣箇所がないよう確認する。

【事後対策】

そらまめでトンネル資材が破損した場合は、速やかに補修する。

５　果　樹

【事前対策】

（１）冠雪や暴風による倒木・枝折れを防ぐため、整枝せん定を早めに実施するとともに、補強用の支柱を入れ、枝をロープなどでしっかり結束・固定しておく。

（２）湿った雪による冠雪が多いと判断される場合は、枝や果樹棚等に付着した雪の払い落としを随時行う。

（３）ぶどう、なしの棚栽培において、大雪により除雪が不可能で棚の崩壊が懸念される場合は、非常手段として周囲線を掘り出し、周囲柱の下の積雪を踏み込み、主線や小張線を外す。

【事後対策】

（１）枝が折損した場合は、切り直して保護剤を塗布する。

（２）主枝分岐部等の太枝が裂開した場合は、被害程度に応じて切除するかボルト等で接合し、保護剤を塗布する。

（３）倒伏した樹を引き起こす場合は、残った根を傷めないよう慎重に行う。また、断根の程度に応じて地上部を切りつめる。

６　花　き

【事前対策】

栽培施設の換気不足が懸念される場合は、かん水量を減らすなどにより、施設内湿度の上昇を防ぐ。

【事後対策】

（１）被災して障害程度の著しい株は、病害発生源となりやすいので、早めに処分する。

（２）施設の被災や停電があった場合は、速やかに暖房機を点検し、電照・補光関連装備（電球、タイマー等）の作動点検を行う。

７　きのこ

【事前対策】

（１）強風が予想される場合は、ハウスを保護するため、支柱・支線等の点検・補強を行うとともに、換気扇や暖房機の排気管（煙突）等が強風で飛ばされないよう、事前に補強する。

（２）ハウス栽培で気温の低下が予想される場合は、生育障害を防ぐため、適切な温度・湿度管理に努める。

（３）ハウスへの着雪が予想される場合は、排気管（煙突）等の保守に努め、施設内部への燃焼ガス漏れに注意するとともに、滑落した雪による施設への側圧を軽減するため、散水ホース等を使用し消雪を促進する。

（４）停電に備え、自家発電機の準備・点検を行う。

【事後対策】

（１）施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。

（２）降雪量が多い場合は、雪による施設への側圧及び沈降圧が作用しないよう可能な限りハウス周囲の除雪に努める。

（３）停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作業点検を行う。

８　畜　産

【事前対策】

（１）すき間風を防ぐため畜舎の点検を行い、子畜等の保温に努める。また、換気は昼間の比較的暖かい時間帯に行う。

（２）停電に備え、自家発電機の手配を行う。特にウインドウレス畜舎の場合は停電時の換気、保温対策を行う。

（３）飲料水の凍結防止対策を行う。

【事後対策】

停電があった場合は、停電回復後に速やかに関連機器の作動点検を行う。